

新年 あけましておめでとーごうございます。

平成30年の輝かしい新春を健やかに迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、市民の安心な生活を支える本市の救急医療において、千歳医師会をはじめ多くの関係機関のご支援のもと、9月に千歳市休日夜間急病センター「ささえーる」を開設し、内科系初期救急医療の365日体制を9年ぶりに整備することができました。

一方、国際情勢において、北朝鮮から発射された弾道ミサイルが、2度にわたり北海道上空を飛翔したことは、市民の安全に重大な脅威となるものでありました。

このような緊張を増す安全保障情勢を受けて、政府においては、我が国の安全保障の基本方針となる、新たな「防衛計画の大綱」策定の議論が進められているところであります。

60年余にわたり自衛隊と共に発展してきた本市としましては、まちづくりや地域の活力に影響を与える自衛隊の体制が今後ともしっかりと維持・強化されるよう、国への要望など積極的な活動を展開してまいりました。

また、年間を通じて、新千歳空港の活況が継続した一年でありました。国内線及び国際線の利用者が、過去最高を更新した一昨年を大幅に上回り、特にアジアをはじめ観光客が増加している国際線については、初めて300万人を突破するものと見込まれており、今後も新規就航などにより、この勢いが継続していくものと期待するところであります。

市は人口増加対策がまちづくりの最重要課題と考え、一昨年3月に「千歳市人口ビジョン・総合戦略～みんなで97,000プロジェクト～」を策定し、さまざまな施策を戦略的に総動員しております。

先人が守り育ててきた空港の活況が、ホテルなど受入れ施設の拡充、新たな企業の進出や雇用の創出、人口の拡大という好循環を生み、まちの活性化を牽引する大きな力になっていることと、子育て支援策をはじめとする各種施策に総力をあげて取り組んだ結果、人口は順調に伸び続け、新年度の早い時期には、目標とする97,000人を2年程度前倒して達成できる見込みとなったところであります。

このことから、本年はこの勢いをさらに加速させ、まちのさらなる「高み」を目指し、将来的には10万人を目指すまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

そのため、保育定員のさらなる拡大や子ども医療費の助成拡大をはじめ、緑小学校区における新たな学童クラブの開設、さらには市民の生命や財産を守る防災行政無線のデジタル化工事など、本年も引き続き、市民の皆さまとともに全力でまちづくりに邁進してまいり所存であります。

また、千歳科学技術大学につきましては、平成31年4月の公立大学法人化に向け、市議会と協議を進めてまいります。

新しい一年が、活力にあふれ、市民の皆さまの笑顔が輝く、希望に満ちた年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

千歳市長 山口幸太郎



高

平成30(2018)年の
一年一字「高(こう・たかい)」

昨年の「成(成果・成長)」を継続し、さらなる「高み」を目指す一年としてまいります。

